

稚咲内砂丘林で実施したエゾシカ囲いワナ事業の結果と課題

—ICTを活用した取組—

宗谷森林管理署 一般職員 海老原 良太
宗谷森林管理署 主任森林整備官 田中 淳

はじめに

近年、宗谷管内ではエゾシカが増加しており早期の対応が望まれています。昨年度、囲いワナ事業の実施にあたり監視業務の負担を軽減するため、ICT（Information and Communication Technology）を活用し取り組みましたので、その結果と課題について発表します。

事業箇所

稚咲内砂丘林の北部において実施しました。この場所は利尻礼文サロベツ国立公園、稚咲内海岸砂丘林植物群落保護林に指定されており、銃狩猟が禁止されています。周辺住民の話によると林内がエゾシカの越冬地として利用されており、森林被害も確認されました。現地は平坦で道から近い場所でしたが、電源がなかったため、発電機を利用することとしました。

事業内容

材料は単管パイプ、ネット、合板を使用し、高さは3.6mとしました。遠隔監視・操作システムには「まる三重ホカケン」を、発電機は「デンヨー DA-3100SS-IV」使用しました。また、防音、凍結・積雪対策として仮設小屋を設置しました。

誘引飼料には牧草サイレージを使用しました。囲いワナ内にエゾシカが侵入するとスマートフォンに通知がくるので、カメラ映像を確認し、2~3頭がはいった時点で捕獲を実施しました。

結果と課題

ICTの活用結果と課題

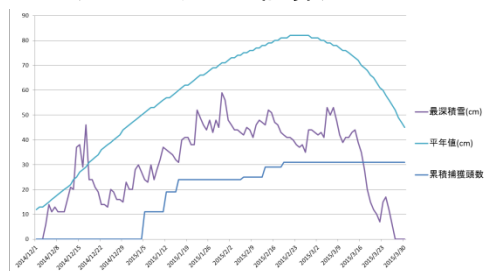
- 監視業務の負担軽減
- 捕獲作業の効率化
- 安全性の確保
- ×風雪による不具合

捕獲日	捕獲時刻	オス	メス
1月5日	1:17	3	8
1月12日	16:40		8
1月16日	23:00		5
2月6日	16:15	1	
2月13日	23:50	1	3
2月19日	18:00		2
計		5	26

表：捕獲結果

発電機運用結果と課題

- 安定的で十分な発電量
- 音やにおいによる影響は小さい
- ×積雪対策のための仮設小屋が必要
- ×設置・維持・燃料等に経費がかかる（30万円以上と試算）



図：積雪深と捕獲頭数について
気象庁HP過去の気象データ（豊富町）をもとに作成

平成27年度事業改善点

経費がかかる発電機に変えて、風力・太陽光のハイブリット発電を利用して事業を実施中（導入経費約25万）



写真：風車と太陽光パネル